

渡り鳥の観察会

1月17日(火)、酒田市宮海の西荒瀬保育園児を対象とした「みどりの保育園」は、「渡り鳥の観察会」を実施しました。

酒田地域も小寒の頃は、例年になく寒さ厳しい日が続きましたが、当日は、少し寒さが緩む絶好の観察日和となり、年長組園児23名、先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター3名の総勢30名で行いました。

保育園の玄関前で出発式を行った後、園児の皆さん、先生方、当センター職員1名は保育園バスに乗り込み、最上川河口のスワンパークに向かいました。

バスの中では、双眼鏡の使い方、冬鳥の中の水鳥(オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、ヒシクイなど)の生態、なぜ渡りをするのか、鳥の不思議について事前学習をしました。「冬に大陸から酒田に渡って来る鳥は?」、「夏に大陸から酒田に渡って来る鳥は?」との質問には、「ハクチョウ!」、「ツバメ!」と答えてくれる優秀な園児さんもあり、4月から「みどりの保育園」で森林環境教育を行ってきた成果ではないかと嬉しくなりました。このような西荒瀬保育園児の皆さんの将来が楽しみです。

30分ほど雪道を走った保育園のバスは、目的地のスワンパークに到着しました。小寒の寒さが緩んだとはいえ、スワンパークではじわーっと寒さが覆います。しかし、冬でも「しんちゃんの森」で遊んでいる園児達にとっては、寒さはへっちゃらのようで、双眼鏡を首にかけると元気よく観察場所へ駆け出しました。

観察場所で双眼鏡を覗きだすと、「ハクチョウが大きく見える」、「ハクチョウがあんなに集まって何しているのか」など思い思いの感想を言ってくれました。そんな園児達の姿を発見したハクチョウの家族は、急に身の危険を感じたのか、「コオー、コオー」と鳴きながら羽ばたきを始め、その後、助走をして空に飛び立ちました。ある園児からは、「ハクチョウが飛び立つところを始めて見た」と歓声が上がりました。

寒かったけれど真冬の空に飛び立つ純白なハクチョウ達を目の前で見たこと、バスの中で冬の水鳥について学んだことは、園児達の心の中にしっかりと刻まれると思います。

最後に、スワンパークのオオハクチョウの像の前で記念撮影をして、今日の観察会は終わりとなりました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター